

倉敷市児島モーターボート競走場スタンド棟施設整備
基本設計書 概要版

2022 年 8 月

■目次

1 章	与条件整理	02
1-1.	基本理念・基本方針	
1-2.	計画条件	
2 章	施設計画	04
2-1.	計画概要	
2-2.	意匠計画	
2-3.	配置計画	
2-4.	平面計画	
2-5.	動線計画	
2-6.	内装計画	
3 章	構造計画	13
4 章	電気設備計画	14
5 章	機械設備計画	15
6 章	防災計画・環境計画・各種シミュレーション報告	16
7 章	事業概要	17

■ 1-1. 基本理念・基本方針

1 章 与条件整理

●目的

本業務の目的は、老朽化しているボートレース児島のスタンド棟の維持管理費の低減と、安全安心の確保のためのスタンド棟のコンパクト化、及び多様化するニーズや新規ファンの獲得のための改修、改築等の基本設計を行うことです。

また、地域との共生や子育て世代の家族が楽しめることを目指した市民の憩いの場等、新規ファンの獲得のみならず、ボートレース場を中心施設として、ボートレース場に求められるこれらの役割を担えるスタンド棟の施設整備に関する基本設計を行うものです。

1. 施設整備の基本理念

「だれもが訪れ 快適な時間を過ごせる 拓かれた ボートレース児島」

2. 施設整備の基本方針

1. 観覧施設規模の適正化（コンパクト化）を目指します。
2. 来場促進及び多様なニーズへの対応を目指します。
3. 地域の魅力を活かして多世代が集う交流と賑わいの創出を実現します。
4. 地域貢献施設として防災機能を整備します。
5. 環境に配慮した施設整備に努めます。



■ 1-2. 計画条件

1 章 与条件整理

敷地概要

- (1) 敷地所在地 : 岡山県倉敷市児島元浜町 6 番地 3
- (2) 敷地面積 : 108,601.77 m²
- (3) 用途地域 : 準工業地域
- (4) 防火地域 : 指定なし（法 22 条地域）
- (5) その他地域地区 : 大規模集客施設制限地区
- (6) 建蔽率 : 60%
- (7) 容積率 : 200%
- (8) 前面道路 : 12.5m(岡山県道 21 号岡山児島線)



付近見取図

棟別概要（既存）

棟名	第 2 期スタンド棟	第 3 期スタンド棟	第 4 期スタンド棟	入場門棟	競技棟	事務所棟	外向発売所棟（旧館）	外向発売所棟（新館）	第 1 副審棟	第 3 自家電気室	その他
工事種別	解体	改修・増築	改修・増築	工事対象外	工事対象外	工事対象外	工事対象外	工事対象外	工事対象外	工事対象外	工事対象外
耐火性能	耐火建築物	耐火建築物	耐火建築物	-	-	-	-	-	-	-	-
構造	SRC 造	SRC 造	SRC 造	-	-	-	-	-	-	-	-
階数	地上 6 階	地上 6 階	地下 1 階・地上 6 階	-	-	-	-	-	-	-	-
基礎・杭	杭基礎	杭基礎	杭基礎	-	-	-	-	-	-	-	-
延床面積（㎡）	17,960.979	13,658.847	16,483.580	670.020	2,853.781	1,510.610	1,007.110	2,164.460	28.830	151.500	1,474.261
建築面積（㎡）	5,680.216	3,396.076	4,184.660	1,135.220	3,333.936	806.580	1,113.390	2,116.810	17.530	162.000	2,919.574
竣工年月	昭和 54 年 6 月	昭和 62 年 5 月	平成 5 年 9 月	平成 30 年 7 月	昭和 50 年 10 月	平成 27 年 6 月	平成 10 年 8 月	平成 23 年 7 月	-	平成 10 年	-
備考	-	-	-	-	-	-	-	平成 27 年 3 月増築	-	-	-

KOJIMA PARK

瀬戸内の美しい景観に囲まれたボートレース児島を基本理念・基本方針に基づき再構築し、市民に拓かれた誰もが楽しめるサードプレイス「KOJIMA PARK」としてリノベーションします。

1. 観客施設規模の適正化（コンパクト化）
- 第 2 期スタンド棟を解体し、施設全体としては約 12,000 m²の面積を削減することで、収容人員を 24,000 人から約 5,000 人にコンパクト化します。
 - 観覧席を約 8,600 席から約 2,000 席にコンパクト化します。
 - レース形態により、一般観覧席の運営エリアを可変できる計画とします。
2. 来場促進及び多様なニーズへの対応
- スプラッシュゾーンの設置やグループ席の充実、個室やブース席、畳席やソファ席、ハイグレードな指定席等、バリエーション豊かな観覧席を計画し、多様なニーズに応えます。
 - 屋内外に充実した子ども施設を新設し、子育て世帯の来場促進を図ります。
 - 施設中央の利用しやすい場所にフードコートを整備し、ファミリー席の設置やカウンター席等の充実した飲食エリアを計画します。
3. 多世代が集う交流と賑わいの創出
- 入場門近くに屋外とも一体に利用できる多目的なイベントホールを計画し、多様なイベント開催に対応した計画とします。
 - 子ども施設は、競走水面に視覚的につながる計画とし、子ども施設～屋外観覧席～競走水面へと賑わいの溢れる施設計画とします。
 - イベント広場や ROKU は地域へ貸し出し可能な施設とし、多世代が交流できる施設として計画します。
4. 地域貢献施設として防災機能を整備
- 高潮等の際に地域の人々が垂直避難できる一時避難場所として屋上広場を計画します。
 - 災害時の屋内の一時避難場所として活用できる特別観覧席兼会議室（ROKU）を計画します。
5. 環境に配慮した施設整備
- 第 5 期棟においては、高効率機器の採用や高気密高断熱化により従来の建物よりも、使用するエネルギーを 30%以上削減します。
 - 屋上緑化や太陽光パネルの整備など、目に見えるかたちで環境に配慮した計画とします。

棟別概要リスト

棟名	第 5 期棟	第 2 副審棟	職員通路 (1)	職員通路 (2)	第 3 期スタンド棟	第 4 期スタンド棟	EV・階段棟	客通路庇	渡り廊下棟	設備棟
用途	観覧場 ホール 子ども施設	事務室	通路	通路	観覧場	観覧場	観覧場	通路	通路	機械室
工事種別	増築	増築	増築	増築	改修	改修	増築	増築	増築	増築
耐火性能	耐火建築物	耐火建築物	耐火建築物	耐火建築物	耐火建築物	耐火建築物	耐火建築物	その他	その他	耐火建築物
構造	SRC 造	S 造	S 造	S 造	SRC 造	SRC 造	S 造	S 造	S 造	RC 造
階数	地上 3 階	地上 4 階	地上 2 階	地上 2 階	地上 6 階	地下 1 階 地上 6 階	地上 5 階	地上 1 階	地上 2 階	地上 3 階
基礎	杭基礎	杭基礎	杭基礎	杭基礎	杭基礎	杭基礎	杭基礎	杭基礎	杭基礎	杭基礎
延床面積	5,696 m ²	148 m ²	22 m ²	65 m ²	13,683 m ²	16,401 m ²	386 m ²	-	-	892 m ²
備考	同一棟							別棟	別棟	別棟



※パースはイメージであり、色・デザイン等は今後の検討により変更となる場合があります。

KOJIMA PARK



※パースはイメージであり、色・デザイン等は今後の検討により変更となる場合があります。

デザインコンセプト **“KOJIMA FLOW”**

ボートレース児島を象徴する3つの“流れ”により、エキサイティングなレースの高揚感を表現します

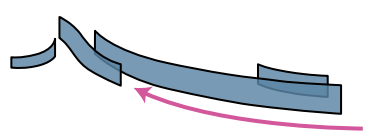
■ 新たなボートレース児島をつくる3つの“FLOW”

第5期棟の主たる役割を、BR 児島に由来する3つのフロー（流れ）になぞらえ、「ボートレースのスピード感、ダイナミックさ」「地域開放、地域貢献の発信」を表現します。



FLOW-1 “潮” の流れ

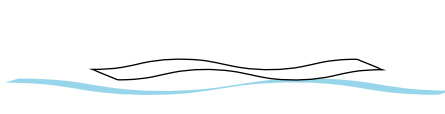
→「スムーズでワクワクさせる来場者動線」



- 瀬戸内海の雄大な「潮の流れ」を表現するゆるやかな曲線状の「ターンウォール」
 - ・ 潮の流れが、古来の船運のように来場者をスムーズにスタンド棟へ導き、賑わいを作り出します。
- 仕上：波や織物・ジーンズをイメージするリブ形状のRC化粧仕上 + 塗装

FLOW-2 “風” の流れ

→「地域に向けた新たな機能」



- 児島に吹く「新たな風」を表現する立体的な屋上広場屋根
 - ・ 地域開放や緊急時避難など、新たな機能の拠点
 - ・ 地域の新たな景観づくり、施設のシンボルとなる庇
 - ・ 屋上へ上がりたくなる楽しさや、自由さを表現
- 仕上：自由な風や、風を受ける帆をイメージする軽快なテント

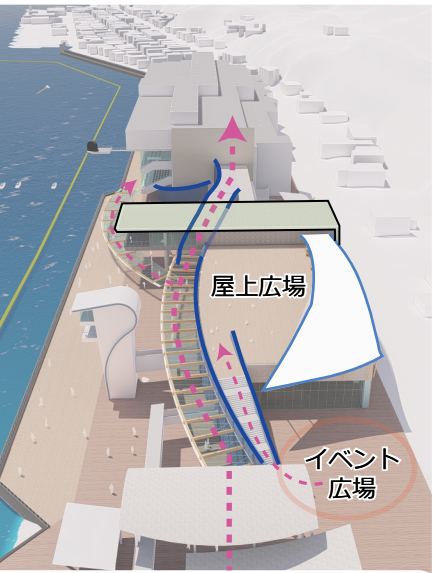
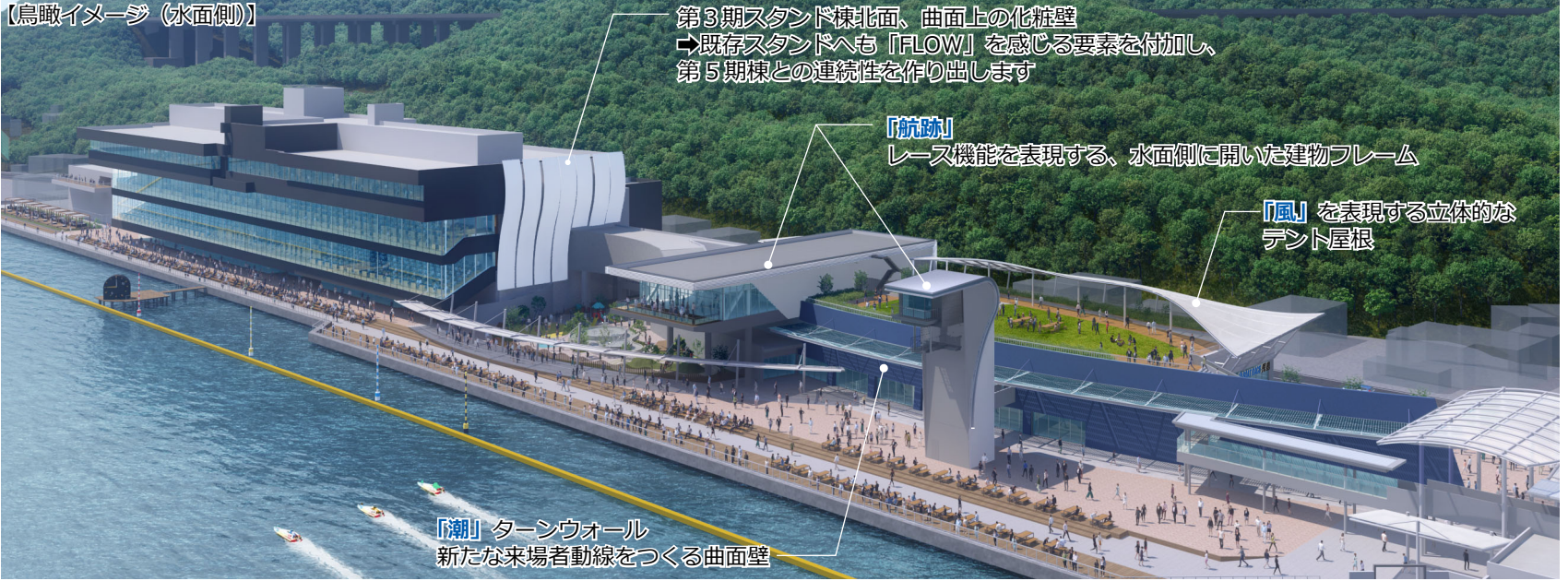
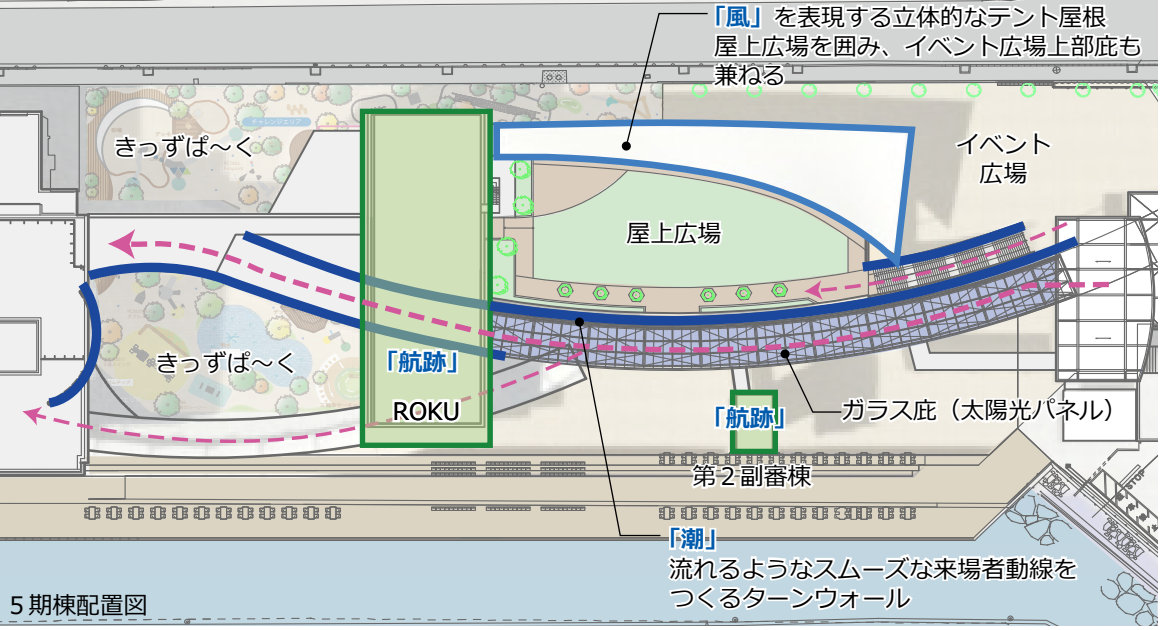
FLOW-3 ボートの“航跡”

→「スピーディでエキサイティングなレース」

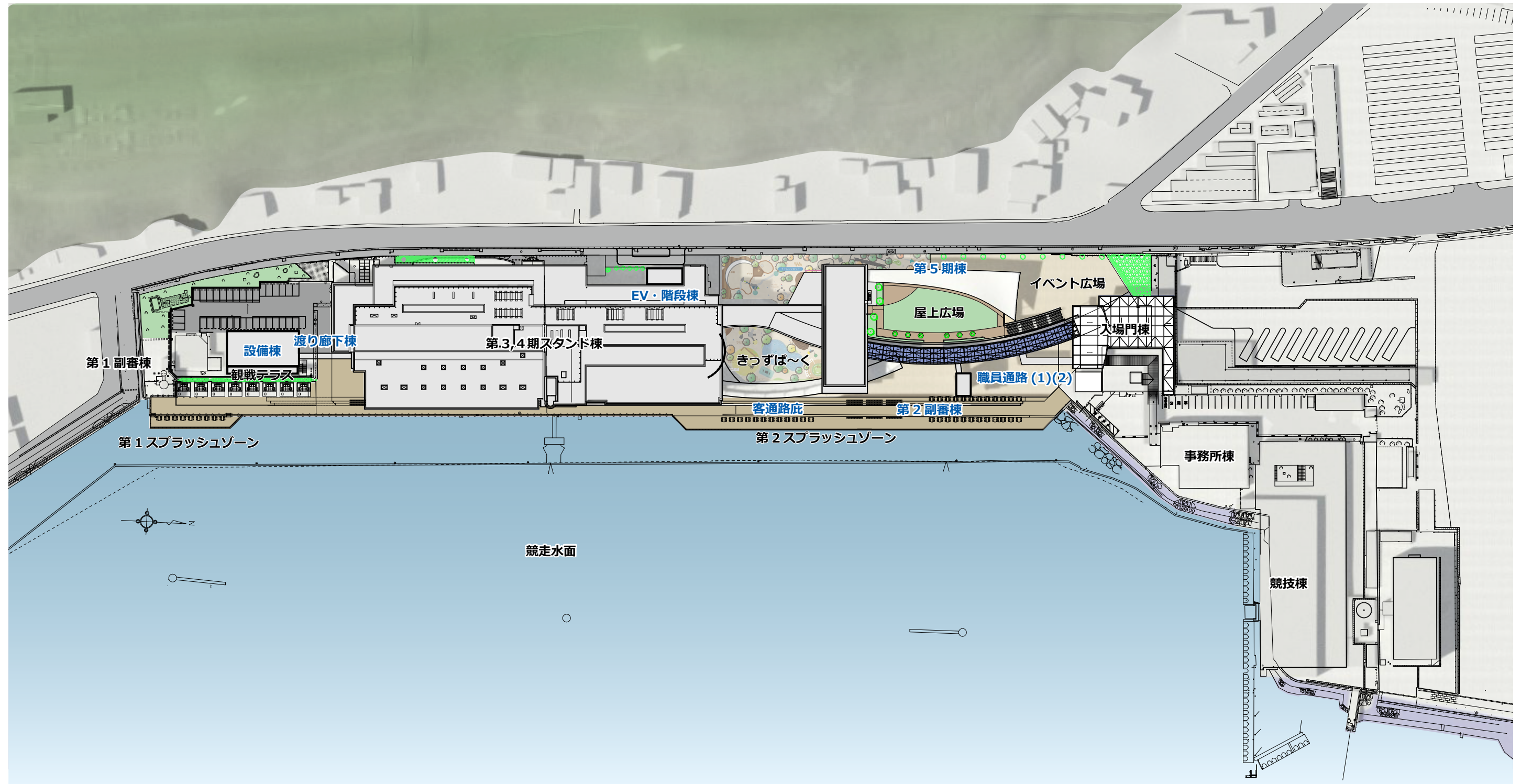


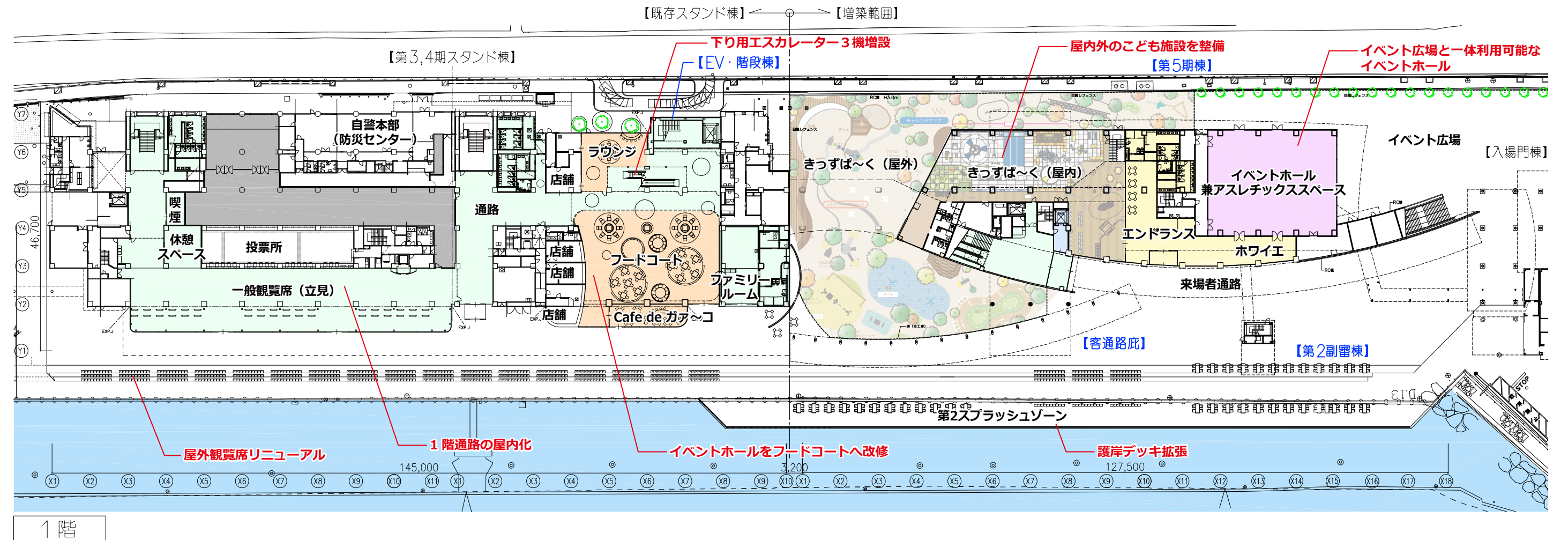
- ボートレース特有のスピード感のある動きや、水面に残る「航跡」をイメージするシャープなフレーム
 - エキサイティングなレースを表現し、来場者の高揚感を向上させます。
- 仕上：疾走する6艇のボートをイメージするシャープな金属ルーバー・アルミパネル

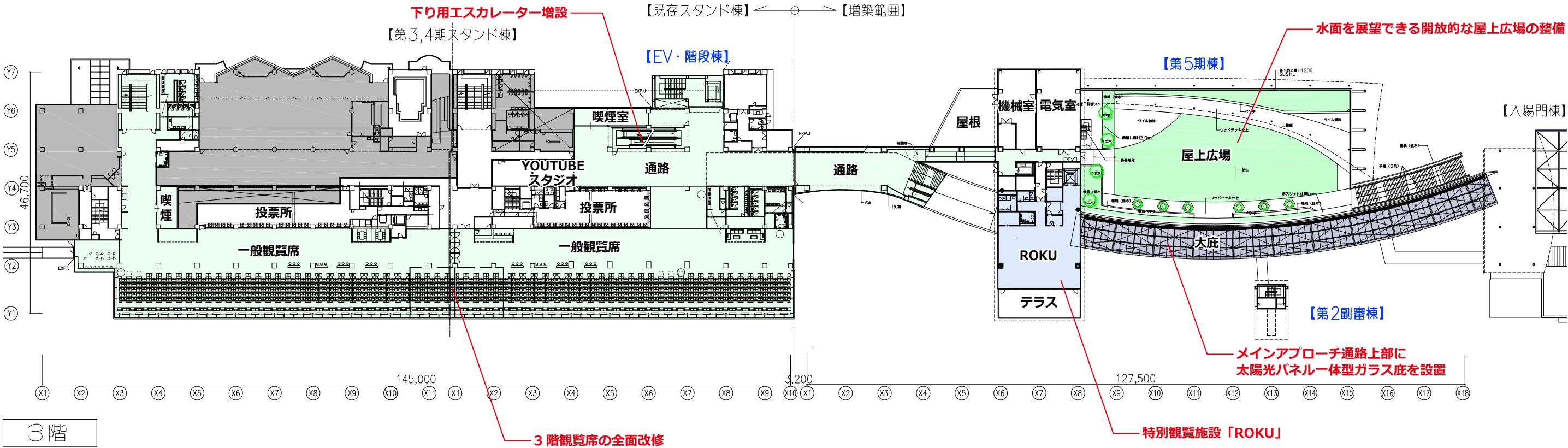
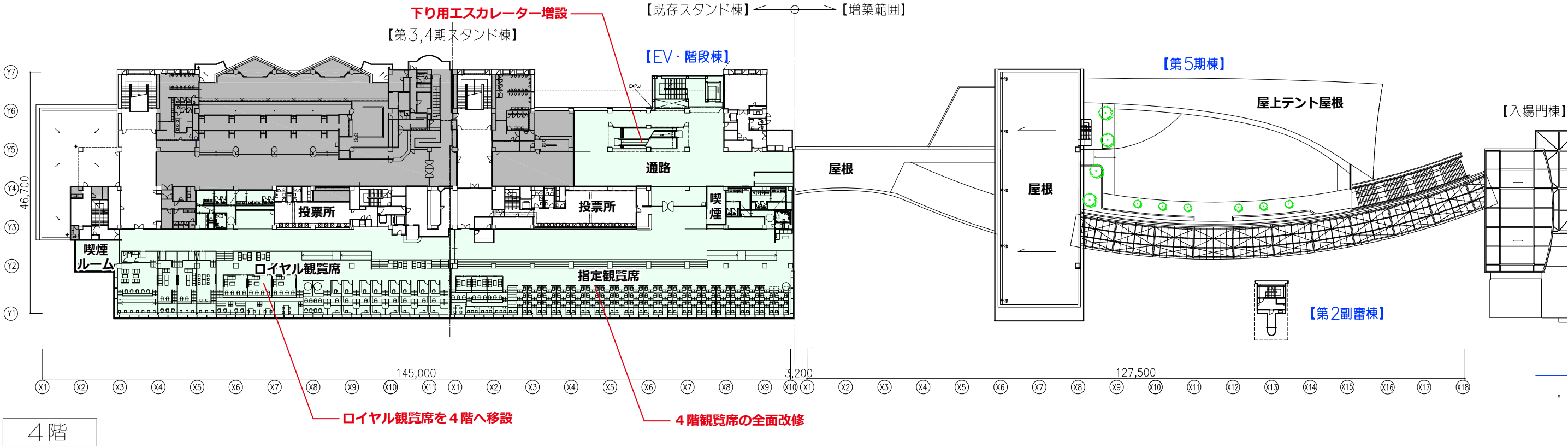
※パースはイメージであり、色・デザイン等は今後の検討により変更となる場合があります。

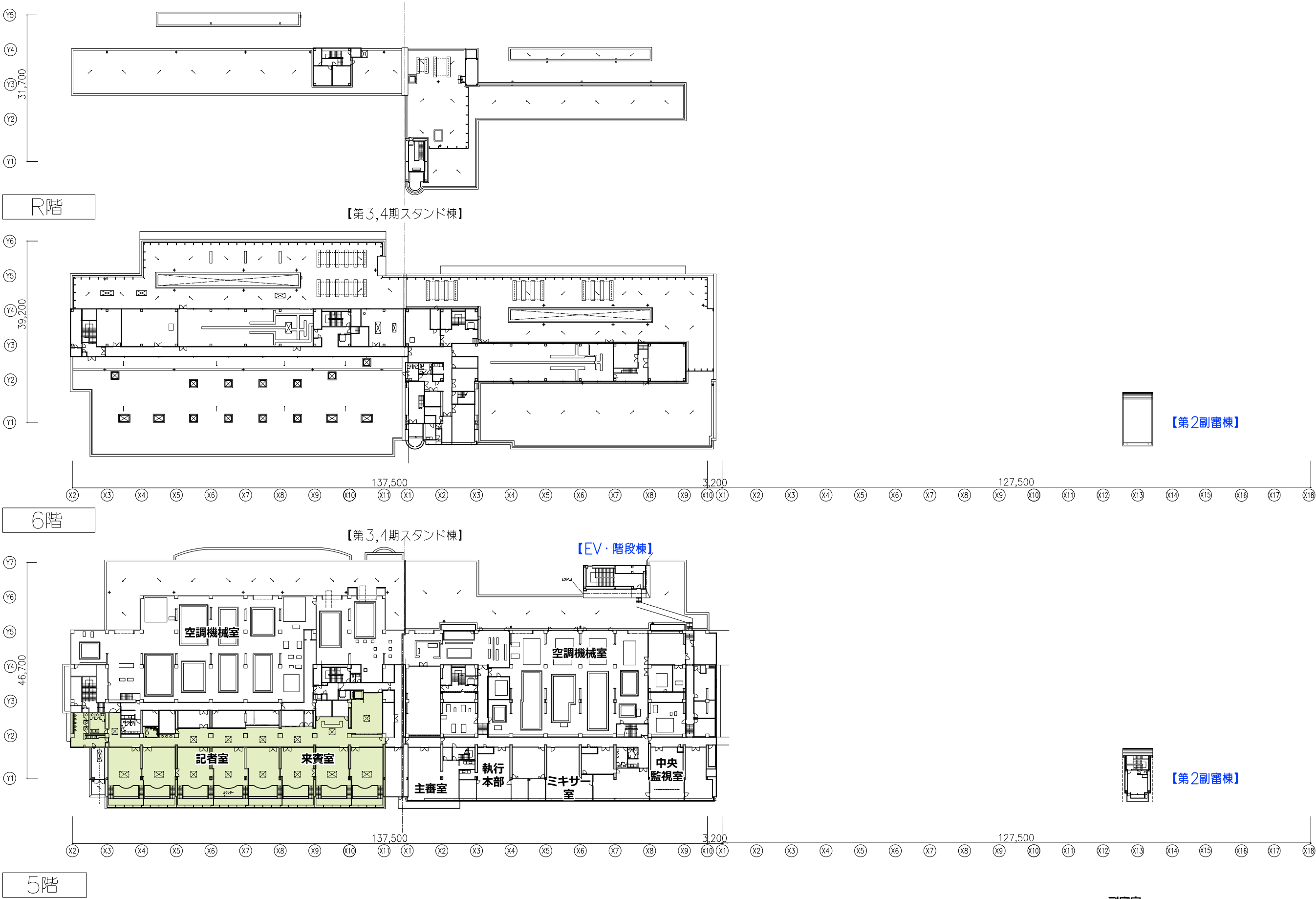


- ・ スタンド棟のコンパクト化と耐震化のために解体する第2期スタンド棟の跡地に、新しく第5期棟として子ども施設とイベントホールを配置します。
- ・ 第5期棟には、スタンド棟3階のメインフロアへ繋がるようエスカレーターを設けます。
- ・ 第5期棟と第3期スタンド棟との間には、空地として屋外子ども施設（きっずぱ〜く）を設け、将来的に第3,4期スタンド棟建て替える際の仮設スタンド用地を確保します。
- ・ 第5期棟のイベントホールは入場門棟脇のイベント広場に面して配置し、扉を開放することで一体的利用が可能な計画とします。
- ・ 第5期棟3階には屋上広場を設け、眺望の良い憩いの場とするとともに、津波や高潮発生時には垂直避難場所として、地域住民の安全安心に寄与します。
- ・ 第2期スタンド棟解体に伴う新たな受変電室・発電機室として、旧ロイヤル駐車場に新しく設備棟を配置します。
- ・ 第5期棟3階には特別観覧席兼会議室（ROKU）を設置し、災害時の一時避難等の地域貢献施設として活用します。









- ボートレース観客
・ 入場門棟よりターンウォールに沿って、それぞれの観覧エリアに向かいます。
・ 3階の観覧エリアへ至るには、ターンウォール沿いに、風除室からエスカレーターで3階に向かいます。
・ 4階の指定観覧エリアへ至るには、エスカレーターで4階に向かいます。そこから更に奥に進むと、ロイヤル観覧エリアとなります。
・ 水面際で観戦する観客は、水面沿いに第3,4期スタンド棟前の観覧席、若しくは1階の投票所へ向かいます。
- 来賓客
・ 事務所棟で手続きを済ませた後、2階の連絡通路より第4期スタンド棟のエレベーターで5階の来賓室に至ります。
- きつぱ〜く利用客
・ ターンウォール中央入口からアプローチします。きつぱ〜く奥には、屋外施設も用意されています。
- イベントホール利用客
・ 表彰式等のボートレース利用の際には、ターンウォール中央からホワイエを抜けて入ることができます。
・ 地域開放等のイベントの際には、イベント広場側のスライド扉を開放することで、イベント広場との一体利用も可能です。
- ROKU利用客
・ 第5期棟1階から専用エレベーターで直接アクセスします。レースのない日でも、単独利用することが可能です。



- ・ 外観では、明るいモノトーンを基調とし、テーマカラーであるターンウォールの児島ジーンズ色や、植栽の緑が映える色調とします。
- ・ 内観では、白を基調とし、手に触れる目に近いところでは、明るい木質系の材料、若しくは木調のシート等を用いて、明るく健康的な内装計画とします。
- ・ 部分的にジーンズ加工品をアクセントとして用い、児島らしさを演出します。



●ロイヤル観覧席

- ・ 居心地の良い上質な空間
- ・ 木質系の素材により、落ち着いた雰囲気演出

床 : タイルカーペット
壁 : クロス貼り
腰 木練付け
天井 : 岩綿吸音板
一部折上げ天井



●指定観覧席

- ・ 明るく居心地の良い空間
- ・ 白い壁と、落ち着いた木調仕上により、明るく健康的な雰囲気演出

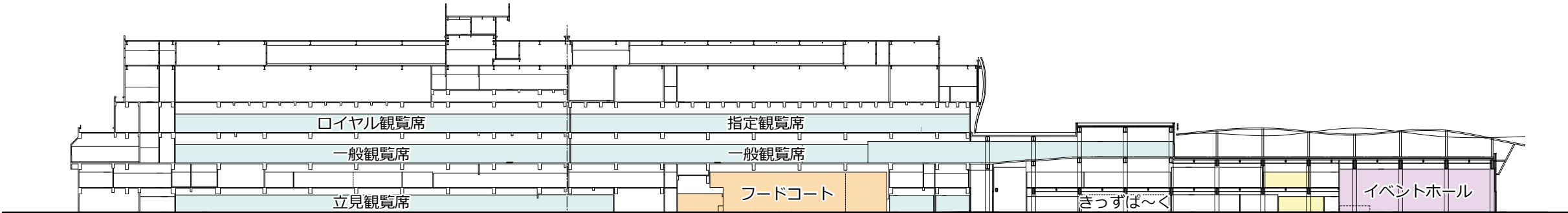
床 : タイルカーペット
壁 : シート貼り
天井 : 岩綿吸音板



●一般観覧席

- ・ 明るく開放的な空間
- ・ 白い壁と、ナチュラルな木調仕上により、明るく健康的な雰囲気演出

床 : タイルカーペット
壁 : シート貼り
天井 : 岩綿吸音板



●フードコート

- ・ 潮流と波紋ををテーマと動きのあるデザイン
- ・ 白を基調とした、清潔で明るい雰囲気演出

床 : 塩ビシート貼り
壁 : シート貼り
波型化粧ボード貼り
天井 : 岩綿吸音板
円形折り上げ天井



●イベントホール

- ・ 木質系の材料を主とした温かみのある空間
- ・ 球技など多目的な利用を想定した耐久性のある仕上

床 : フローリング
壁 : 木リブ
+ ガラスクロス貼り
天井 : 岩綿吸音板
梁型 木仕上げ

※パースはイメージであり、色・デザイン等は今後の検討により変更となる場合があります。

3-1-1. 基本方針 第 3, 4 期スタンド棟の改修)

既設第 3 期スタンド棟は昭和 59 年 11 月に、既設第 4 期スタンド棟は平成 3 年 7 月に構造設計されている。よって、両建物共に、いわゆる新耐震設計法で設計がなされた建物であり、現行の建築基準法は満足していないが、耐震設計上はそれと同等と判断される。

第 3, 4 期スタンド棟の改修、改築計画における構造計画基本方針は以下のとおりとする。

(1) 既設耐震壁について

改修、改築にあたり、既設耐震壁の撤去は行わない計画とする。また、計画上、既設耐震壁へ通路開口や扉開口を新設する場合は、耐震壁として成立する開口寸法以下とする。

(2) 部屋用途変更について

部屋用途変更がなされる場合は、変更後の部屋の積載荷重は、変更前の設計用積載荷重以内に収まるように計画する。

(3) 増設エスカレータについて

増設されるエスカレータ荷重による応力が、既設大梁等の部材耐力以内に収まっていることを確認する。また、追加されるエスカレータ荷重に対して、地震力が増加しないように、仕上げ等を撤去するなどして、建物重量を低減する。

(4) 既設第 3 期スタンド棟 1 階 フードコートへの改修について

既設第 3 期スタンド棟 1 階 フードコート(X4-X6, Y2-Y4)の床レベル=1FL-800 である。床レベル=1FL ± 0 とするため、既設床版を撤去した後、鉄骨架台を構築した上で新設床版を設置する。荷重を軽減するため、新設床版のコンクリート種別は軽量コンクリートとする。

(5) 既設第 3, 4 期スタンド棟 3 階、4 階 客席の改修について

既設客席改修のため鋼製床が設置される場合は、既設仕上げ(モルタル仕上げ(厚 30)、荷重 600N/m²)を撤去することにより荷重を低減する。新設鋼製床の荷重は 600N/m²以下とする。

3-1-2. 改修設計方針 (第 3, 4 期スタンド棟の改修)

(1) 既設耐震壁の新設開口設置に対する設計方針

- ・既設耐震壁に開口が新設された場合、既設耐震壁の増厚による補強を行う。
- ・増壁により補強した既設耐震壁の耐力は、「既存鉄筋コンクリート造建物の耐震改修設計指針同解説(日本建築防災協会, 2017)」(以下、「改修指針」)に基づき算定する。
- ・増壁により補強した既設耐震壁の耐力は、既設耐震壁に開口が新設される前の耐力以上となるよう検討する。
- ・既設耐震壁に開口が新設される前の耐力は、「改修指針」に基づき算定する。

なお、実施設計においては、既設耐震壁への新設開口を考慮して、改修後建物の耐震診断を実施することにより、建物の耐震性能が目標値を満足することを確認する必要があるものとする。

3-2-1. 基本方針 (第 5 期棟)

本建物の構造計画における基本方針は以下のとおりとする。

(1) 耐震性能グレード

構造体の耐震安全性の分類は、「II 類」(重要度係数 $I=1.1$)を採用する。これより、建築基準法および同施行令に準拠した大地震時の耐震性能に対して 1.1 倍の余裕度を確保する。

3-2-2. 架構計画方針 第 5 期棟)

第 5 期棟本体(X1~X15)と、独立階段部分(X15~X18)は、EXP.J を設けることにより構造計画上は分離する。

(1) 構造種別

＜第 5 期棟本体(X1~X15)＞

上部構造の構造種別は、架構スパン、水平剛性の確保、最近の労務状況と工期等を総合的に判断して、鉄骨鉄筋コンクリート造(鉄筋コンクリート造壁(ターンウォール)を支持しない部分の大梁は、鉄骨造)とする。

＜独立階段部分(X15~X18)＞

上部構造の構造種別は、鉄筋コンクリート造とする。

(2) 架構形式

＜第 5 期棟本体(X1~X15)＞

・架構形式は、南北方向(長辺方向)は、円弧状の鉄筋コンクリート造壁(ターンウォール)が存在することから耐震壁付ラーメン架構とする。東西方向(短辺方向)は、施設のフレキシビリティに配慮し、純ラーメン架構とする。

・3 階専有観覧室(ROKU)は、Y2 通りから Y1 通り側へ 10m 跳ねだすため、X6、X8 通りに 1 層分のトラス梁架構を形成して床を支持するものとする。

＜独立階段部分(X15~X18)＞

・架構形式は、南北方向(長辺方向)および東西方向(短辺方向)ともに、壁式架構とする。

(3) 基礎構造

基礎構造は、設計 GL-5m~12m 以深の強風化花崗岩 (N 値 27 以上)または、風化花崗岩(花崗岩類)(N 値 60 以上)を支持層とした独立基礎形式による直接基礎(地盤改良併用)とする。

3-2-3. 構造設計方針 (第 5 期棟)

(1) 計算ルートおよび耐震設計、その他

＜第 5 期棟本体(X1~X15)＞

・構造計算の耐震計算ルートはルート 3 とし、建築基準法に定められた 1 次設計(許容応力度設計)および 2 次設計(保有水平耐力の検討)を行う。2 次設計において、必要保有水平耐力に対する保有水平耐力の割合は、重要度係数 ($I=1.1$)以上を確保するものとする。

・南北方向(長辺方向)に伸びる円弧状の鉄筋コンクリート壁(ターンウォール)は、X8~X15 間については、三方スリットを設けることなく鉄筋コンクリート造壁(耐震壁)として評価することにより、意匠外観計画に配慮するものとする。X8~X15 間のターンウォールにつながる 2 階、3 階の床版は、吹抜けや床版と大梁の間にスリット(30mm)を設けることにより、地震時水平力が床版から耐震壁へ伝達しないようにする。したがって、X8~X15 間の鉄筋コンクリート造壁は、構造計画上耐震壁として評価されるが、地震力は壁自重と周辺躯体の自重分の地震力のみを負担することとする。X3~X8 間については、2 階、3 階の床版は、吹抜けが存在しないことと、床版と大梁の間にスリットが設けられないため、ターンウォールに三方スリットを設けることとし、耐震壁としては評価しない。三方スリットは、両柱際と上下大梁の内、下側の大梁際に設置する。

＜独立階段部分(X15~X18)＞

・構造計算の耐震計算ルートはルート 1 とし、建築基準法に定められた 1 次設計(許容応力度設計)を行う。1 次設計における壁率の算定の際に、重要度係数 ($I=1.1$)を考慮するものとする。

4 電気設備計画の基本方針

- 施設管理及び運用に対する利便性、操作性、効率性への配慮を念頭においた計画を行います。
- 将来的な増改築、既存改修に配慮した基幹設備の計画を行います。
- レース運営の確実な機能維持・継続を可能とする設備計画を行います。

●基幹設備

■ 受変電設備

敷地内（南面）に設備棟を新築し、高潮被害対策として建物 2 階に新たに受電室を設置します。
設備棟内受電室より各スタンド棟変電室や競技棟第 1 変電室に対して、高圧による送電を行います。
将来的なスタンド棟の増改築や既存改修における既存スタンド棟変電室の更新を想定し、受電室の受変電設備は、商用・非常用系統の切替が可能となるシステム構築およびその将来設置スペースを計画します。

■ 発電設備

設備棟 2 階に非常用発電機 2 台を新たに設置します。
既存常用兼非常用発電機 1 台は既存ストック有効利用の観点から、停電時における同時運転が可能となるシステムを構築します。また、商用電力のピークカットとしても継続利用します。
燃料は現状同様、A 重油による運用とします。

●電灯設備

■ 照明設備

5 期スタンド棟をはじめ新築する棟のほか既存スタンド棟の改修に伴い、照明器具は LED を採用します。
観覧席エリアは自然光の取込が期待できることから昼光利用制御を計画します。また、従業員スペースのトイレや廊下部には人感センサー等を採用することにより、日中における不要な点灯の抑制を行い、省エネルギーに貢献します。

●弱電設備

■ 放送設備

既存スタンド棟の改修に伴い、建物内放送系統の再構築を行います。
お客様エリアを中心に「レース実況放送や投票締切案内」などのアナウンスを目的とした放送系統、従事する職員
の事務連絡を目的とした放送系統等を主体に構築します。

■ インターホン設備

既存スタンド棟の改修に伴い、インターホン設備の再構築を行います。
過去の増改築や大規模改修時の増設等により、複数のシステムによる運用が行われています。
今回整備事業に伴い、インターホンシステムの再構築を行い、単一のシステムによる運用・管理を行います。
これにより、管理・運用における一元化を実現します。

●防災設備

■ 自動火災報知設備・総合操作盤設備

4 期スタンド棟自警本部（防災センター）において、継続して防災監視を行う運用とします。
既存スタンド棟の改修に伴う各機器の更新や増設を行います。

■ 自動閉鎖装置設備

排煙口の増設や自動閉鎖駆動方式の変更に伴い、制御に関連する設備の改修を行います。

●中央監視設備

■ 中央監視設備

既存 2 期スタンド棟解体に伴い、3 期スタンド棟新中央監視室に新たに中央監視装置を構築します。
外向発売所に設置されている既設中央監視装置とのデータ共有は、専用通信（BACnet 方式）を利用した方式とします。
中央監視装置新設に伴い、運用上の一元管理を実現します。

●再生可能エネルギー

■ 太陽光発電設備

メインアプローチ通路上部の庇には、ガラス庇一体型太陽光パネルを採用します。
主な玄関口となるメインアプローチに設置することにより、視覚的な環境 P R を行います。

●機械設備計画の基本方針

- ポートレース場としての役割を果たすため、各設備システムの安全性、信頼性、耐久性、柔軟性を重視し、施設管理及び運用に対する利便性、操作性、効率性への配慮を念頭においた計画を行います。
- 地球環境への負荷を可能な限り低減した計画とするとともに、システムの構築に当たっては、ライフサイクルコスト、ライフサイクル CO2 の削減に配慮した計画とします。

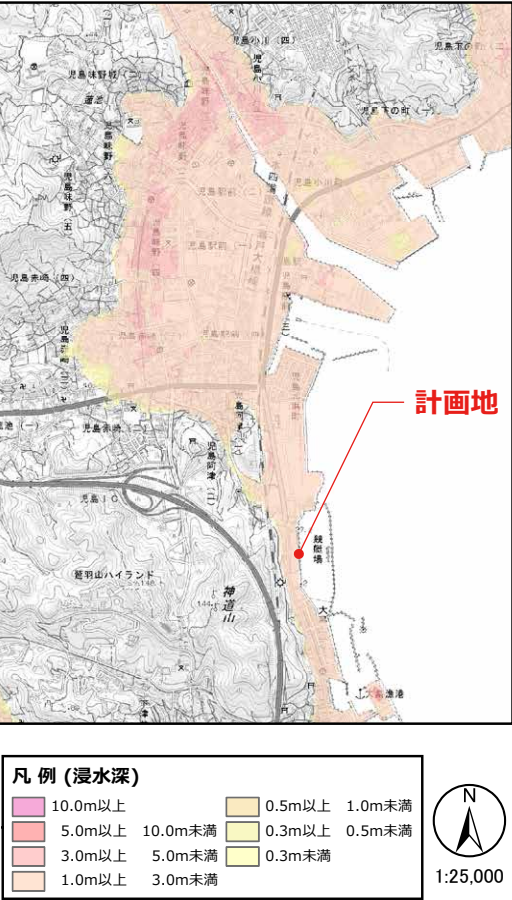
●給排水衛生設備

- 給水設備
前面道路からの引込を更新し、受水槽に貯水後、加圧ポンプにて必要箇所へ供給します。
水栓類は自動水栓、小便器類は自動センサー式とします。
- 給湯設備
個別の給湯方式とし、流し台等は電気温水器、厨房等はプロパンガス式瞬間湯沸器にて必要箇所へ供給します。
- 排水通気設備
建物からの排水は污水、雑排水は合流方式とし、既設污水枳へ接続し排水します。
厨房からの排水にはグリーストラップを設置します。
- 消火設備
消防法に基づき、スプリンクラー設備、連結送水管等を必要箇所に設置します。
放水による水の被害を抑制する室は補助散水栓を設置します。
- プロパンガス設備
プロパンガスボンベ庫を西面に設置し、必要箇所へプロパンガスを供給します。

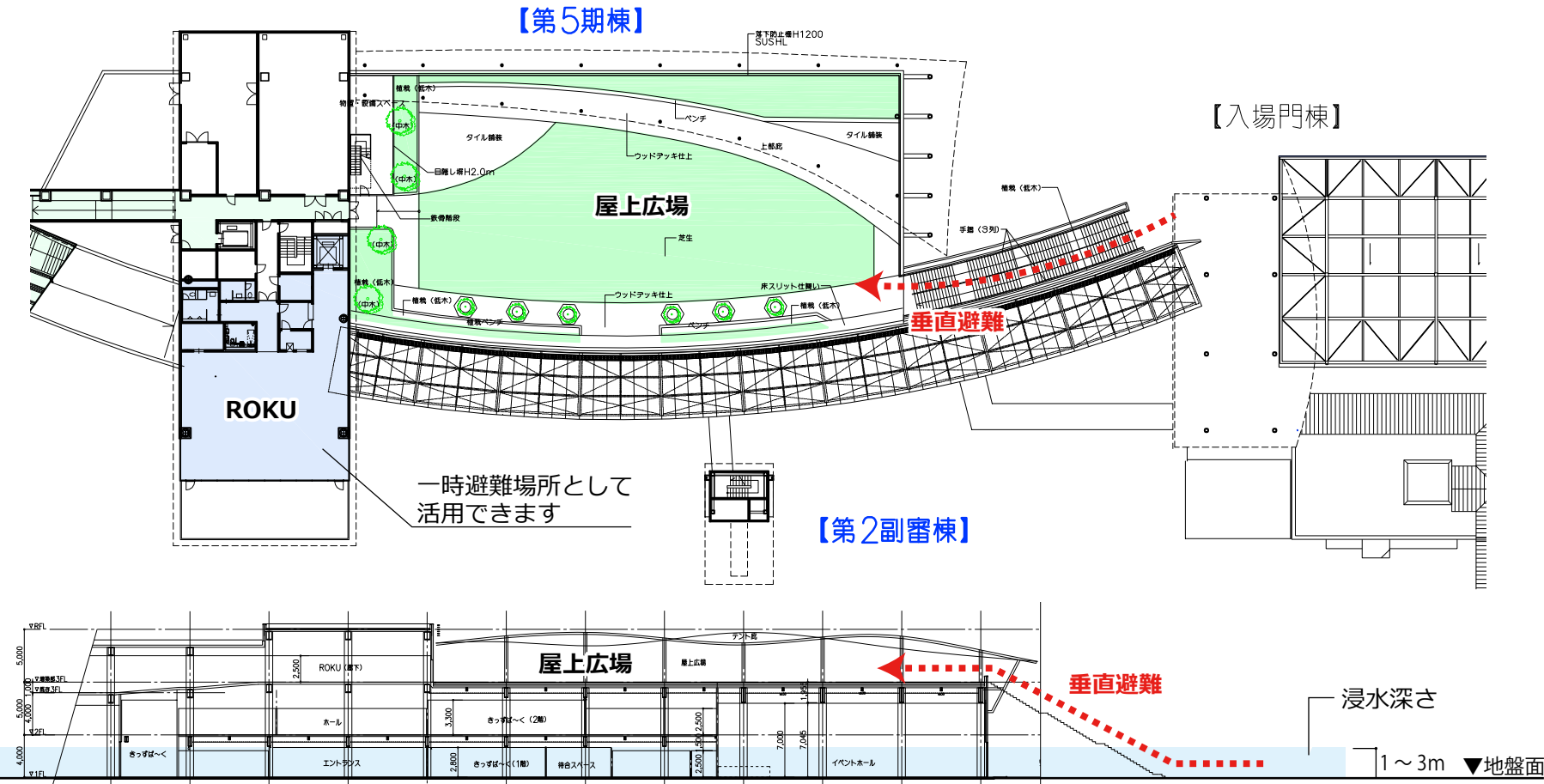
●空気調和設備

- 熱源方式
熱源機器は電気主体による設備とします。
レース来場者数状況に応じて、追従可能な中央熱源方式と個別熱源方式に分類して計画します。
- 空調方式
空調方式は各エリアの特性に合わせた方式を採用します。
空調機器は汎用性の高い機器を選定します。
- 換気設備
各室の換気目的に応じて適正な換気量、室内圧を確保します。
室内の CO2 濃度を計測して、適正な換気量となるように制御します。
- 自動制御設備
中央熱源機器、個別熱源機器を一元化監視できるシステムとします。
リニアに可変できるように少量の熱負荷においても効率よく制御が可能となるシステムとします。

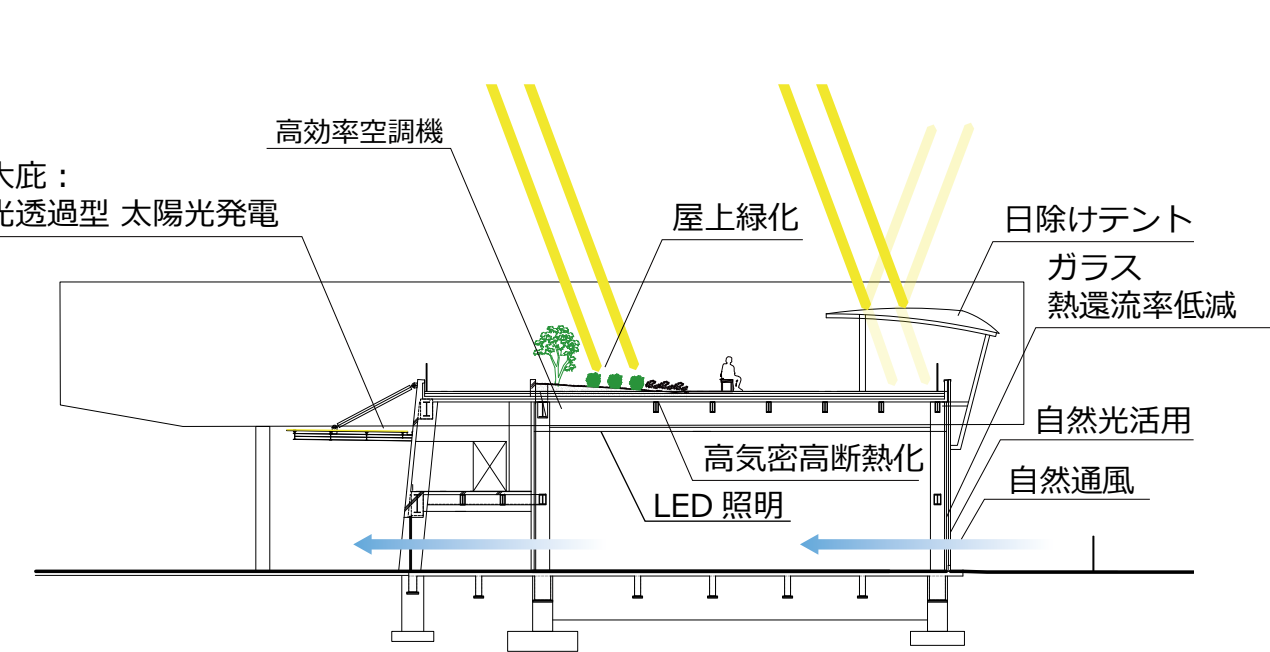
■岡山県高潮浸水想定区域



■第5期棟の垂直避難計画



■第5期棟のカーボンニュートラルの提案



■風環境への影響

既存建物と完成後の建物を対象に、競走水面への影響を確認するため、現地で数年にわたり測定した風データをもとに、風環境のシミュレーションを行いました。

その結果、全体として一定の変化は見られるものの、現状より強い風の出現は見られなかった。よって、レースに影響のある風環境の変化はないと判断します。

■音環境への影響

既存建物のある現在の騒音レベルを現地で実測し、また、第5期棟完成後の音環境のシミュレーションを行うことで、騒音レベルの変化を確認しました。

その結果、全体として一定の変化はみられるものの、現況以上の騒音レベルの上昇は見られなかった。近隣に影響のある変化はないと判断します。

● 事業手法

本事業の基本設計策定以後の事業手法について、品質、価格、時間、難易度、管理性、透明性の6つの評価視点に基づき検討した結果、ボートレース開催との調整、早期の事業完了や、コスト縮減効果などの優位性から、本事業の今後の事業手法については、詳細設計付工事発注方式（DB方式※）を採用することとします。

本事業でのDB方式の優位性	評価
ボートレース開催との調整	設計段階から施工者と工事手法を見据えた、ボートレース開催日程の調整が可能。
事業期間の短縮	設計と施工を一部同時に実施するなど、事業全体を合理的かつ円滑に進捗させることができる。
コスト縮減	施工の合理性を見据えた設計内容や、施工者の技術活用によるコスト縮減が期待できる。
難易度の高い改修のリスク低減	設計者のノウハウと施工者の技術を活用し、改修手法を両側面から同時に検討することが可能であり、リスク低減が見込める。

※DB方式：Design Build方式の略

● 概算建設事業費

令和4年7月時点での概算建設事業費は、以下のとおりです。

(単位：億円 ※消費税相当額を含む)	
項目	事業費
新スタンド棟整備	41.0
既存3期・4期スタンド棟改修	56.4
既存2期スタンド棟解体	6.2
外構等	4.7
設計監理	7.5
合計	115.8

※家具什器備品等の購入費、ボートレース関連の特殊設備の更新等の費用、移転等の費用は含みません。

● 今後の事業スケジュール

令和4年度末までに実施設計・施工を行う事業者を選定し、令和8年度中の事業完了を目指します。

	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)
事業者選定					
実施設計					
既存3期・4期 スタンド棟改修					
既存2期スタ ンド棟解体					
新スタンド棟 整備					
オープン準備			 一部供用開始		 オープン

※現時点での予定であり、各工事等の実施時期は、事業者の提案により変更の可能性があります。

倉敷市児島モーターボート競走場スタンド棟施設整備 基本設計書 概要版
倉敷市

お問い合わせ先
倉敷市ボートレース事業局
〒711-8567 倉敷市児島元浜町6-3
TEL (086) 472-5051

※本概要の内容は、今後の事業実施の過程で諸事情により変更する場合があります。